

今号の内容

- 壱 新入医局員の紹介
- 弐 人事異動
- 参 研究紹介
- 四 学会報告
- 五 ホームページを
リニューアルしました

巻頭言

ケヤキ並木の緑もあつという間に濃くなり、仙台もそろそろ梅雨の時期を迎えています。今年度も多くの優秀な新人が入局し、医局は活気にあふれています。それぞれ、当分野の臨床・研究・教育に大きく貢献してくれるものと期待しています。また、藤原実名美先生が輸血・細胞治療部副部長に着任され、さらに造血幹細胞移植コーディネーターとして上野さんが参加してくれました。この強力な体制を基盤として、今後、移植領域での診療の充実とともに先進的な試みも展開していきたいと考えています。本号は、これらの新人スタッフの紹介、7月からアメリカ留学が決まった白井君の研究紹介、今後の行事予定など盛り沢山となっています。診療連携、医師主導治験、臨床研究、若手医師のリクルートなど、医局と関連病院の関係の深化がこれまでも増して重要になってきています。教室の先輩方にはご協力賜りますよう、よろしくお願いたします。

(張替 秀郎)

行事予定

7月6日

16研症例検討会
於仙台医療センター

11月9日-10日

秋保セミナー
於ホテルニュー水戸屋

新メンバー紹介

<助教 兼平 雅彦>



皆様、はじめまして。

平成25年4月より、血液・免疫病学分野へ助教としてお世話になっております兼平雅彦と申します。出身は岩手県盛岡市で、現在は妻と息子の3人家族です。

就任早々、スタッフの皆様の知識とスキルの高さに圧倒されていますが、何とか喰らいついていこうと思っております。研究テーマはすべて魅力的で目移りしそうですが、当面は造血幹細胞、間葉系幹細胞ならびに白血病幹細胞などに中心に研究を遂行しようと思っております。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

略歴)

1999年	岩手大学農学部獣医学科	卒業(獣医師免許取得)
2004年	東北大学大学院医学系研究科	修了(医学博士)
2004年	東北大学加齢医学研究所呼吸器腫瘍分野	研究員
2008年	Texas A&M Health Science Center	Post-doctoral fellow
2010年	宮城県大河原家畜保健衛生所	家畜防疫員
2012年	東北大学大学院医学系研究科	呼吸器内科学分野 研究員
2013年	同	血液・免疫学分野 助教

<大学院生 近藤 愛子>



初めまして。今年度、大学院進学とともに血液・免疫科に入局致しました近藤愛子と申します。出身は岩手県の紫波町という所で、平成22年に秋田大学を卒業後、今年の3月まで岩手県立中央病院で3年間勤務していました。まだ入局して間もないですが、日々周りの先生方から刺激を受け、たくさんのことを経験・勉強させて頂いております。東北大学に何の縁も無い私を、快く迎えて頂いた張替先生をはじめとする医局の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

血液内科医として経験が浅く、まだまだ勉強不足で御迷惑をおかけすることも多いと思いますが、一生懸命、臨床・研究に取り組みたいと思いますので、今後とも御指導・御鞭撻の程、よろしくお願い致します。

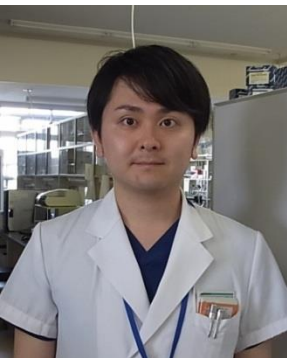
<大学院生 加藤 浩貴>



はじめまして。本年度より東北大学血液免疫科へ大学院生1年目として入局させて頂きました、加藤浩貴と申します。出身は埼玉県北部の田舎町(旧菫蒲町 現久喜市)で、H22東北大学医学部を卒業し、その後石巻赤十字病院にて2年間の初期研修及び1年間の内科後期研修をさせて頂きました。東北大学在学中は硬式庭球部に所属、石巻での研修中は1年目のローテーションが終了する3月に東日本大震災を経験致しました。幸い自宅住居及び病院自体は大きな被害を免れ、無事3年間の研修を終えることができました。震災後数か月間野戦病院と化しその後も被災地の急性期病院として機能し続けている石巻赤十字病院で研修させて頂いた事は、大変貴重な経験でありました。研修期間中は血液内科高川先生にご指導いただきました。何もわからない自分に手厚くご指導いただき大変感謝致しております。今後は血液免疫科医局員及び大学院生としてまた一から勉強させて頂きたいと思っております。

以上大変簡単ではございますが入局のご挨拶とさせて頂きます。血液内科医としてまだまだ未熟者ではありますが精一杯努力していきたいと思っております。今後とも何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

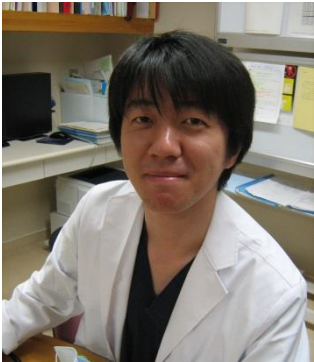
<大学院生 長谷川 慎>



今年度新しく入局させて頂きました、長谷川慎と申します。出身は岩手県盛岡市で、平成22年に東北大学を卒業しました。卒業後は東北大学病院にて2年間の初期研修を行い、その後は大崎市民病院血液内科で1年間、後期研修医として血液疾患について学ばせていただきました。この4月から血液免疫科に入局し、現在は主に病棟での診療にあたっています。

学生のころから血液疾患に興味を持ち、実習の際には先生方には大変お世話になってきました。まだまだ未熟ですが、これからもご指導のほどよろしくお願いいたします。

<後期研修医 大橋 圭一>



今年4月から後期研修医として血液免疫科に入局した大橋圭一です。出身大学は東北大学で、初期研修は八戸市民病院で二年間研修をしました。初期研修中に東北大学病院で2ヶ月間、血液グループにご指導頂く機会に恵まれ、基礎と臨床が密接に関わり、あらゆる分野の知識を要する血液疾患の診療に興味を持ちました。分子標的薬や造血幹細胞移植の拡大など飛躍のある分野でありますので、臨床だけでなく研究に関しても力を入れ、少しでも医療発展に貢献できればと思っております。未熟でありますので皆様にご迷惑をかけることが多いですが、一日も早くスタッフとして活躍できるよう精進致します。どうぞよろしくお願い致します。

<造血細胞移植コーディネーター 上野 秋花>



造血細胞移植コーディネーターの上野秋花(うわの あきか)と申します。看護師として6年間、大学病院の高度救命救急センターやCoronary Care Unitなどで勤務したのち、臓器移植コーディネーター(日本臓器移植ネットワーク所属)として、11年半勤務しておりました。臓器移植コーディネーターのときは、ドナーコーディネーターでしたので、臓器提供情報への対応(家族への説明・承諾、ドナー適応評価、手術室立ち会い、臓器搬送、遺族訪問など)、移植医療の普及啓発(学校・病院・行政などでの講演、マスコミ対応、会議・シミュレーションの企画運営など)、移植登録者のデータ整備など多岐にわたって仕事をしておりました。

東北大学では初めての造血細胞移植コーディネーターであり、現在、仕事内容を少しずつ決めているところです。コーディネーターは、医療の隙間産業的な要素があり、仕事内容が随時変化するため、なかなか周囲には理解されにくい職種でもあります。「移植医療に関する何でも屋」と思っていただけで幸いです。

造血幹細胞移植を受ける患者さまとご家族、また提供される方とそのご家族が移植医療を十分納得して選択できるようにサポートしていきます。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

式 人事異動

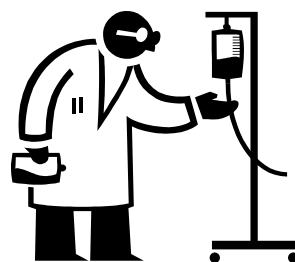
<輸血・細胞治療部副部長

藤原 実名美>



この4月に輸血・細胞治療部副部長に着任しました藤原実名美です。平成4年卒業、平成11年大学院修了後、主に造血幹細胞移植を中心として、血液免疫科で診療してきました。夫の米国留学に伴い大学を離れ、帰国後仙台医療センターに勤務しましたが、宮城県では数少ない日本輸血・細胞治療学会の輸血専門医を取得したこともあり、このようなご縁を戴きました。

現在は、自己血の採血、輸血医療関連の研究会開催、院内や県内の輸血医療適正化のための輸血療法委員会、学生への講義等を行っています。多施設共同臨床研究の骨髄内臍帯血移植で用いる臍帯血の洗浄濃縮も開始しました。また洗浄血小板院内調製、自己血由来フィブリン糊(自己クリオ)調製を予定しています。細胞プロセッシングセンターの管理・運営に関わることになり、積極的に臨床研究にも携わっていきたくて考えています。血液免疫科の外来も担当しますので、関連の先生方にお世話になる機会も多いと存じます。引き続きどうぞよろしくお願い致します。



私が行っている研究テーマは“抗血管内皮細胞抗体(AECA)対応抗原の同定とその病的意義の解明”です。

AECA (anti-endothelial cell antibodies)

AECAは、血管炎症候群を含む、血管病変を呈する疾患で検出され、その疾患活動性と相関することが報告されてきました。対応抗原は未だ明確となっておらず、我々は新規膜蛋白自己抗原同定系(SARF)を構築し、対応抗原同定とその病的意義を検討しています(この系は藤井博司講師が発案、平成23年度東北大学病院臨床応用研究推進プログラムに採択)。

SARF (Serological identification system for Autoantigens using a Retroviral vector and Flow cytometry)

この系の概略は次のようになります。

- A.血管内皮細胞のcDNAライブラリーをレトロウイルスベクターに挿入後、cell lineに感染させ、cDNAライブラリーをcell lineに発現させる。
- B.AECA活性を持つ患者血清を選出し、患者血清に結合するAの細胞をフローサイトメトリーを用いてソーティングする。
- C.患者血清に結合した細胞をクローニングし、挿入されているcDNAを同定する。

【これまでの同定対応抗原】

まず、SLE患者において膜蛋白FLRT2が同定され、抗FLRT2抗体はSLEにおけるAECAの20%を占め、補体依存性に細胞傷害性を呈することを報告しました。

次に、関節リウマチ患者より抗ICAM-1抗体を、またAIHAを呈したSLE患者より赤血球膜抗原であるPk抗原に対する自己抗体を同定しました。

また、急性壊死性脳症という特殊な病変を呈したSLE患者より、血管内皮と神経細胞両方で重要な働きをするEphB2を自己抗原として同定し、現在その解析を行っています。

(次ページへ)

(前ページより)

AECAが出現する疾患の中でも、高安動脈炎は明確な疾患標識抗体がなく、特に重点的に対応抗原同定を行ってきました。その結果、高安動脈炎において2種の膜蛋白自己抗原を同定し、現在解析を行っています。

【今後の展望】

今年7月より、張替教授のご高配と藤井講師のご紹介により、米国Stanford大学Weyand教授の研究室に留学することとなりました。同研究室は大血管炎の研究を精力的に行っており、血管の炎症疾患研究を学ぶ上ではとてもよい機会となります。炎症性疾患には多面的な解析が必要であり、これらの研究を融合していければと考えています。

【成果】

論文:

1. Arthritis Res Ther. 2012;14(4):R157.
2. Clin Dev Immunol. 2013:453058.
3. 日本臨牀. 2013;1035:497-501.

受賞:

1. 第4回リトリート大学院生研究発表会最優秀演題賞
2. 第55回日本リウマチ学会学術集会国際ワークショップ(IW)賞
3. 平成24年度三浦記念リウマチ学術研究賞

(白井 剛志)



四 学会報告

去る4月18日-20日、京都において第57回日本リウマチ学会総会・学術集会が開催されました。医局からは以下の8題を発表しました。



<口演>

- 当科で経験した再発性多発軟骨炎8例の臨床経過及び治療
(鴨川 由紀子)
- 当科における関節リウマチ(RA)患者に対する生物学的製剤の投与成績
(斉藤 真一郎)

<ポスター>

- 血球貪食症候群に伴う無顆粒球症を合併した成人発症Still病
(藤井 博司)
- IgG4関連疾患に伴う心臓腫瘍4例の検討
(藤田 洋子)
- ヒトプライマリーT細胞におけるオートファジー定量系の構築及び抗酸化システムとしての機能の解明～自己免疫疾患に対する新たな治療戦略の可能性～
(渡部 龍)
- 発現クローニングシステム(SARF)を用いた高安動脈炎における新規膜蛋白自己抗原2種の同定
(白井 剛志)
- 予後不良因子を有する関節リウマチ(RA)患者に対するトシリズマブ(TCZ)投与の関節破壊抑制効果の検討
(石井 智徳)
- 成人のバルボウィルス感染に関連した血管炎で、再発を繰り返した難治性冠動脈狭窄症の1例
(城田 祐子)

五 ホームページがリニューアルします

ホームページ担当の挨拶

4月より当科のホームページ担当を拝命致しましたので一言御挨拶申し上げます。ホームページは言わばウェブ上の看板であり、東北大学血液免疫科を全国にアピールする場でもあると考えられるので、重要な役割を与えて頂いたと思っております。当科のfreshでsophisticatedなイメージを表現すべく、全体のイメージも抜本的に変更し、内容的にも逐次変更・追加していく予定です。まず手始めとして、医局メンバーや研究業績の更新などに加えて、「ジャーナルクラブ」と題して当科の抄読会の内容の掲載を始めました。今後更なる内容の充実を考えていきたいと思っております。定期的なアップデートを心掛けたいと思っておりますので、折に触れて御覧頂ければ幸いです。また当科ホームページに関しましてご意見ご感想などございましたら、医局までご連絡頂ければ幸甚に存じます。今後とも温かいご指導ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

血液免疫科ホームページ: <http://www.rh.med.tohoku.ac.jp/>

(市川 聡)